

平原城跡

—土砂採取に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—









ろりごやじょう
平原城(有利小屋城) 鳥瞰図
宮坂武男氏作成
(長野県立歴史館所蔵)

例 言

- 1 本書は土砂採取に伴う平原城跡の発掘調査報告書である。
- 2 本発掘調査は事業主より委託を受け、小諸市教育委員会が実施した。
- 3 本書の編集は井出勇介が行った。また、執筆分担については以下のとおりである。
第1章：望月博史 第2章～第4章：星野保彦 第5章：高橋陽一
- 4 土器、陶磁器及び銭貨の遺物実測、遺物写真撮影については、株式会社アルカに委託した。石製品の遺物実測、遺物写真撮影については、森泉かよ子、井出勇介が行った。
- 5 土器の一部及び陶磁器の鑑定については、一般財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター 市川隆之氏から指導を受けた。
- 6 本書に掲載した地図は小諸市発行の都市計画基本図を使用した。
- 7 本書に掲載した平原城縄張り図は、宮坂武男氏の原画（長野県立歴史館所蔵）を使用した。
- 8 本書及び出土遺物は小諸市教育委員会の責任下に保管されている。
- 9 発掘調査及び本書の作成にあたり森泉かよ子氏（佐久市教育委員会文化振興課文化財事務所）からご指導、ご助言をいただいた。また、調査地籍の地権者様、地元の方々には調査の承諾やご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

凡 例

- 1 遺構の略称
Ta—竪穴建物址 SD—溝状遺構 SK—土坑址 P—柱穴址 Tr—トレンチ
- 2 挿図の縮尺
調査全体図—1/300 竪穴建物址、溝状遺構、土坑—1/80 トレンチ—1/80、1/250
土器—1/4 陶磁器—1/1、1/4 銭貨—1/1 石製品—1/1、1/4、1/6
- 3 出土遺物の法量は、口径、器高、底径の順に記載し、<>は現在値、()は推定値を示す。
- 4 挿図中におけるスクリーントーンは下記のとおりである。
・遺構  地山  石  軽石  カ克蘭
・遺物  黒色処理  須恵器表面
- 5 土層の色調は「新版 標準土色帖」（1990年版）による。

目 次

例 言

凡 例

目 次

- 第1章 発掘調査の経過と方法・・・・・・・・・・ 2
第2章 遺跡の環境・・・・・・・・・・・・・・ 7
第3章 基本層序・・・・・・・・・・・・・・ 10
第4章 遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・ 10
第5章 総括・・・・・・・・・・・・・・ 37

写真図版

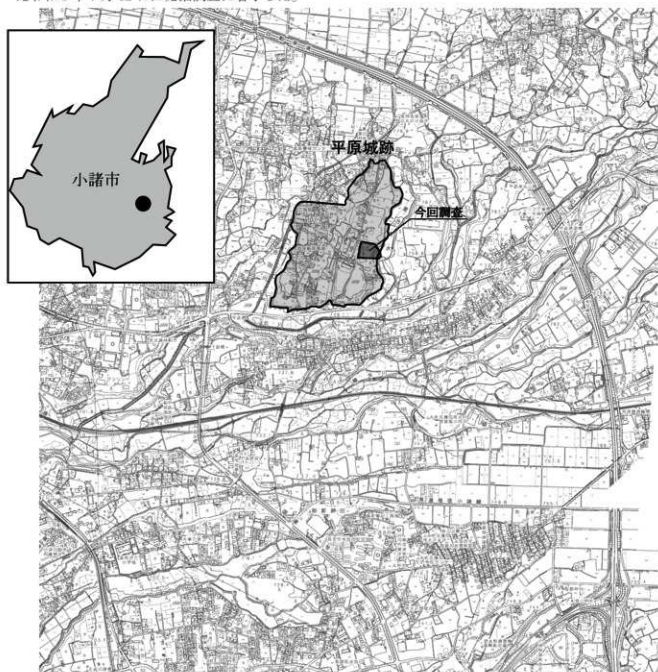
報告書抄録

奥付

第1章 発掘調査の経過と方法

第1節 調査に至る経緯

平原城跡 星合地籍内において土砂採取が計画される。令和3年3月3日、事業主より文化財保護法第93条第1項、同第184条第1項及び文化財保護法施行令第5条第2項の規定に基づく届出が小諸市教育委員会に提出され、長野県教育委員会に進達。令和3年5月17日から同年5月20日に試掘調査を実施したところ、遺構が確認されたため事業主と遺跡保護の協議を行う。結果、検出された遺構については発掘調査、及び記録保存を行うことで合意し、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結のうえ令和3年7月12日に発掘調査に着手した。



第1図 平原城跡の位置 (1:20,000)

第2節 発掘調査の概要

- 1 遺跡名称 平原城跡（星合地籍）（遺跡略号 HJHA）
- 2 調査地籍 長野県小諸市大字平原字星合 1279 番地
- 3 発掘期間 令和3年7月12日～同年11月30日
- 4 整理期間 令和3年11月30日～令和5年1月9日

第3節 調査体制

- 1 調査受託者 小諸市教育委員会 教育長 小林秀夫
- 2 事務局 教育次長 富岡昭吾
文化財・生涯学習課長 安藤貴正
文化財・生涯学習係長 小山輝之
文化財・生涯学習係 高橋陽一 土屋敦 望月博史 土屋千浩
- 3 調査担当者 望月博史
- 4 調査作業員 星野保彦 佐藤光勇 大和田誠 伊藤登造 山口幸子 藤岡義正
- 5 ボランティア 伊藤みゆき 中澤誌麻 中澤慶太 塩川康子 塩川晴琉 中野健司 林雅人
- 6 ドローン撮影 小諸市総務部企画課 宮坂一城

第4節 調査の方法

1 遺構調査の手順

事業主との協議の結果、第1期：調査区東側、第2期：調査区西側の順で調査を実施した。

基本的な調査の進め方であるが、まず、重機で表土を除去した後、草かき等を用いて遺構検出作業を実施した。表土剥ぎで発見された遺物は調査区の一括で付番し取り上げた。

各遺構は、半裁、ベルトの設置等により土層堆積状況を確認し、断面の写真撮影、実測図化後、全体を掘り下げて写真撮影、平面図形の実測を行った。なお、堅穴建物址に関しては、完掘後に床面下（掘方）の状況を確認している。

平面検出時に新旧のわからない遺構、あるいは、攪乱等によりプランが不鮮明な遺構については、随時サブレンチを入れて土層堆積状況を確認しながら作業を進めた。

出土遺物について、一般的な土器等の破片資料は、各遺構の一括遺物として付番して取り上げたが、出土状況に特徴のあるもの、もしくは遺物そのものが特徴的なものについては出土状況を撮影したのち、付番して取り上げた。

図面記録については、平面図は平板を用い実測した。水準測量にはレベルを用い、直視または水系で水平線を設定し、スタッフ、コンベックスによって測点を計測した。

写真記録については、35mm相当のデジタル一眼レフカメラを使用した。

2 調査日誌抄録

【第1期】

令和3年

- 7月12日(月)曇り
調査区東側の台地部分北側にトレンチ1、南側にトレンチ2を設定し表土剥ぎ
- 7月13日(火)曇り時々雨
Tr1、Tr2の表土剥ぎ、遺構検出作業開始
- 7月15日(木)曇りのち雨
遺構検出作業の結果、Tr1、Tr2は遺構(堀)ではなく自然堆積と判断
- 7月16日(金)晴
Tr1、Tr2の写真撮影、平面図作成
- 7月20日(火)晴
第1期の現場作業終了 機材の撤収

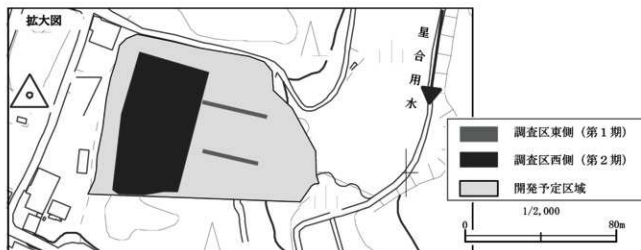
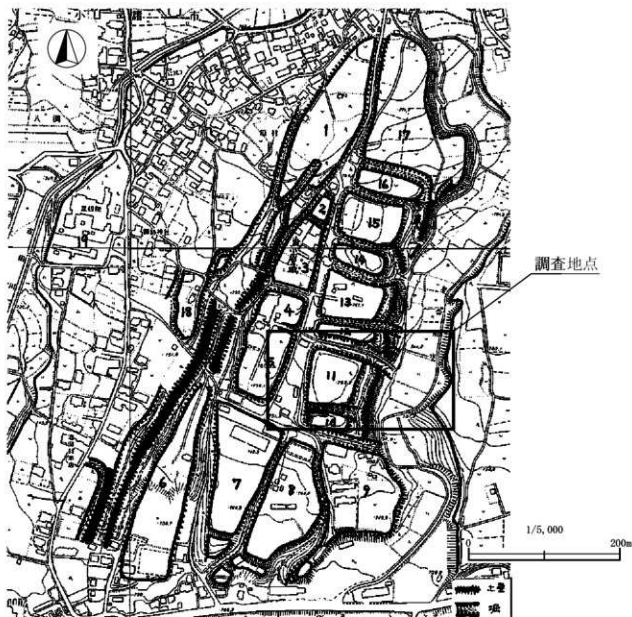
【第2期】

令和3年

- 10月13日(水)雨
現場作業中止 事業主と打合せ
- 10月14日(木)晴
表土剥ぎ、遺構検出作業開始、SD2号壘状遺構(以下、SD2)等の検出
- 10月15日(金)晴
表土剥ぎ、遺構検出作業、Ta1号竪穴建物址(以下、Ta1)等の検出
- 10月18日(月)晴
表土剥ぎ、遺構検出作業
- 10月19日(火)晴のち雨
表土剥ぎ、遺構検出作業、SD1号溝状遺構(以下、SD1)等の検出
- 10月20日(水)晴
表土剥ぎ 遺構検出作業
- 10月21日(木)曇りのち晴
表土剥ぎ 遺構検出作業 SD2の掘り下げ開始
- 10月22日(金)、晴のち雨、10月25日(月)曇りのち雨
SD2掘り下げ、土層観察
- 10月26日(火)曇り、10月27日(水)晴
SD2掘り下げ
- 10月28日(木)晴
SD1で東西1ヶ所ずつ橋を確認 SD2掘り下げ
企画課宮坂主任によるドローン撮影
- 10月29日(金)晴、11月1日(月)晴、11月2日(火)曇り
SD2掘り下げ

11月3日(水・祝日)晴

- ボランティアによる発掘作業 Ta1掘り下げ SD1掘り下げ開始
- 11月4日(木)晴、11月5日(金)晴
SD1掘り下げ
- 11月8日(月)晴、11月9日(火)小雨
SD1、SD2の精査
- 11月10日(水)晴
SD1を精査したところ東側に石積みを確認 SD2の精査
- 11月11日(木)晴
SD1東側石積みの掘り下げ開始 断面図作成
- 11月12日(金)晴、11月14日(日)晴
SD1東側石積みを掘り下げたところ3段に重なっていることを確認
SD1、SD2、Ta1の断面図作成
- 11月15日(月)晴
SD1東側石積みの掘り下げ SD2の断面図作成 Ta1完掘
- 11月16日(火)曇り時々晴、11月17日(水)晴
SD1東側石積みの掘り下げ、断面図作成 Ta1の柱穴検出作業
- 11月18日(木)晴
SD1、SD2の掘り下げ 新たにSD3号溝状遺構(以下、SD3)のプラン確認、掘り下げ
- 11月19日(金)晴
SD1、SD2の掘り下げ Ta1の柱穴検出、掘り下げ
企画課宮坂主任によるドローン撮影
- 11月21日(日)曇り
SD1の石積み実測図作成 SD2の掘り下げ
- 11月22日(月)曇りのち雨
SD1の掘り下げ、写真撮影 SD3の写真撮影
- 11月24日(水)晴
SD1の東側石積み撤去、裏込め確認後断面図作成、Ta1写真撮影
- 11月25日(木)晴
SD1の東側石積み取り外し、裏込め確認後断面図作成 Ta1の写真撮影、断面図の作成
- 11月26日(金)晴
SD1西側の写真撮影 Ta1の柱穴断面図作成
- 11月27日(土)晴のち雪
SD1の平面図作成 Ta1の柱穴掘り下げ 全体平面図作成
- 11月29日(月)晴
SD1東側石積みの平面図作成 SD2の写真撮影 Ta1の掘方掘削、平面図作成 SD3の柱穴プラン確認、掘り下げ、断面図作成
- 11月30日(火)晴
第2期の現場作業終了 機材の撤収 整理作業開始
- ※ 10/29、11/1、11/2、11/4、11/5、11/12、11/15、11/18、11/19、11/21、11/26、11/29
森泉かよ子氏指導



第2図 調査区設定図 (1:5,000、1:2,000)

※ 網張図は、宮坂武男著『信濃の山城と館1 佐久編』2012(P395)より転載(長野県立歴史館所蔵)

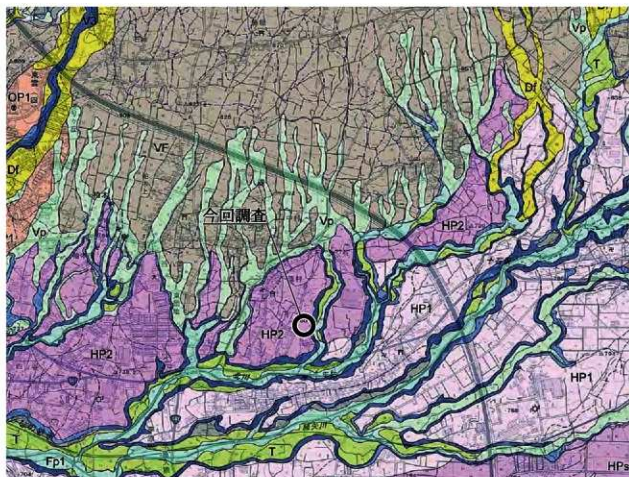
第2章 遺跡の環境

第1節 自然環境

平原城跡は、小諾市の東南部、大字平原字城・寺前・星合、大字柏木字源正原・宮浦・山神地籍にある。標高は738 m～772 mを測る。

遺跡の基盤をなす層は、浅間山から噴出された浅間軽石流と呼ばれる火砕流の堆積層で、層厚は50 m以上に及ぶ地点もある。この堆積層は軽鬆で凝結性に乏しく崩落しやすい性質があり、流水等で簡単に侵食され深く急峻な谷地形が形成される。小諾市の東南部では、こうした谷が樹枝状に広がり、古くより水利が得られる谷部を水田や畑地としてきた。この特徴的な谷地形は「田切地形」と呼ばれ、平原城も西側の吉田川と東側の星合用水の田切地形に囲まれている。平原城跡は北西部に位置する諏訪神社から南の地籍で、この田切地形を利用した水田や畑地が見られるが、範囲の大半を占める中央部から東部の現況は山林である。

遺跡周辺の植生は、高木ではアカマツ、カラマツ、ケヤキ、クスギ、コナラが見られ、低木ではヌルデ、ニシキギ、ヤマウルシ。蔓性のもものでは、アケビ、ノダフジ、スイカズラ、クズ、アオツツラフジなど。草本では、ススキ、ハギ、ウシハコベ、スキナ、クサフジなど。一方、帰化植物のヒメジョオン、ハルジョオン、セイヨウタンポポ等も勢いを増している。



HP2 - 仏岩期火砕流堆積面Ⅱ HP1 - 仏岩期火砕流堆積面Ⅰ Vp - 浅い谷・桶状谷底

T - 河成段丘面 Df - 現成の土石流堆積面 VF - 火山麓扇状地面 Fp1 - 砂礫質低地

HPs - 仏岩期火砕流堆積面Ⅰ (二次堆積面) OP1 - 追分火砕流堆積面 (前期) V3 - 谷壁斜面 (新期)

第3図 周辺地質図 (国土地理院発行 1:25,000 火山土地条件図「浅間山」を著者が加工して作成)

第2節 歴史的環境

平原城跡の城域は東西500m、南北800mに及ぶ広大なもので、宮坂武男氏（註1）の縄張図では19の曲輪が敷えられている。田切地形の浸食による深い谷に、東西方向に堀を堀込み、多くの曲輪を作り出している（宮坂図参照）。本調査地点は城の中で最も標高が高い地点で、宮坂氏は主郭であってもよいとしている。この複雑で、膨大な城跡の縄張りは最終的な状況で、戦国時代の合戦に備えたもので廃城時の姿である。

最初に平原氏の名前がみられるのは1181（養和元）年の木曾義仲に従った横田河原の合戦である（『源平盛衰記』註2）。佐久の武将として根井大弥太行親らと並んで、小諸では小諸太郎忠兼（光兼）、平原次郎影能があげられている。平原次郎影能は滋野党と言われ、信濃の馬産と関わっていたとみられる。鎌倉初期の館跡は今のところ候補はあるが特定されていない（註3）。

木曾義仲滅亡後、滋野氏の勢力に代わって入って来たのが小笠原氏である。甲斐の武将小笠原長清が伴野荘の守護となり、六男が伴野荘に土着し伴野氏を名乗り、七男が大井荘に入り大井朝光を名乗ったという。大井氏は大井朝光—光長—光盛（光長の六男）と続き、光長は各所に一族を配置し、大井光盛は平原に入り平原六郎光盛を名乗った（『四隣譚数』註5）。

『小諸市誌』は、光盛の館の地として、現平原集落南の祝堂（ゆいど）地籍を推定している。1279（弘安2）年に一遍上人が大井太郎（光長）の岩村田の大井館へ来て跣念仏を行っている。平原集落にある十念寺の旧地は祝堂（ゆいど）地籍であり、1313（正和2）年に時宗寺院の紫雲山十念寺が建立されている。跣念仏を一族として加わったであろう光盛が関わったとみている。祝堂地籍は平原集落の台地の南、谷をひとつ隔てた南傾斜の台地である。祝堂集落を「たて」と通称し、前面と背後は水が豊富で美田が広がっている。大井氏が館を構えた地であろうとしている（註3）。

14・15世紀は大井氏の全盛期であり、1448（文安5）年ごろの大井荘領主、大井持光の所領は平原を含めた佐久郡のほか、武蔵国三カ所、上州緑の郡四カ村、上州板鼻・後閑・横川・坂本としている（註4）。

賑わいは国府に勝るとまでなつて全盛を誇った大井氏もやがて戦乱の時代に移り、1484（文明16）年村上氏に攻められる。この文明16年の村上政清・顕国父子の攻撃は、四方から放火して城ばかりでなく岩村田の街も焼き尽くした（『四隣譚数』）。小諸に逃れた大井城主大井光照は小諸市街の北東にある六供の古宿あたりに居を構え、後に鍋蓋城跡へ移ったとしている（註3）。

このとき平原城跡はどうであったろうか。記述は残っていないが、大井氏の館が祝堂地籍にあったとすれば、そのまま村上氏の傘下に入ったのであろうか。

次に平原氏が記録に登場するのは16世紀中ごろとなる。1544（天文13）年武田氏が佐久に攻め入り、このとき落とされた城主に「平原入道」がある。『信陽雜誌』「十一月 武田率八千人佐久郡合戦陥城九箇所」とあり、小室城・岩尾城・前山城・芦田城・内山城・望月城・耳取城・尾基城・平原入道・平尾右近守芳・依良氏 八カ所降参、尾基だけ応じなかったとある。翌、天文14年平原氏は晴信に面謁している（註5）。

1549（天文18）年9.1晴信は平原城攻めのため、鷲林城（佐久市）に陣を張り、9.4平原宿城に放火している（註6）。本調査の石積みされたSD1号溝から出土した内耳鍋やかわかけの日用品の時期が、16世紀前半に限られるという。出土した茶臼・粉挽臼・砥石などの石製品は、火熱を受けている。1549（天文18）年の武田氏の「平原宿城に放火」と結び付けたい。陶磁器類に青白磁の梅瓶・天目茶碗、石製品に茶臼など高級品があることから、「平原宿城」と呼ばれる有力な領主であったとみられる。

この後、平原城は武田氏の支配下にはいり、現在の縄張りに改修され、西を入口とし、「有利小屋城」・「秋葉城」など名前のある曲輪が整備されたと推測する。

1567(永禄10)年、生島足島神社に起請文(晴信に異心の無いことを)をささげた人物に「平原城主依田又左衛門尉信盛」がいる。江戸時代の『寛政重修諸家譜』依田氏系図に「全真(まさざね)下總 信濃の国佐久郡平原に住し、村上義清が手に属す。」とあり、依田氏系図では

全良—全賀—全真—信盛—昌忠—盛繁
となっており、「全真は村上義清の手に属したが、義清流浪後は他に仕えず」とある。また依田全良は群馬の板鼻城に住して関東管領に仕えたという有力者である(註3・註7)。

晴信に放火されたのは「平原入道」で、本調査地点の平原城跡星合地籍に城館を設けたのは、依田氏で、武田氏領有後も引き続き城代として居住したことになろう。

1582(天正10)年、武田氏の滅亡、本能寺の変があって、北条氏の信濃進出、そして徳川氏と目まぐるしく領主が変わる中で、依田信蕃が佐久郡平定に乗り出し、『依田記』によれば、11月中「一番に平原城主平原善心(全真)出仕とあり」、徳川の傘下に入っている。依田記によればこの時降った領主は知行3,000石の株で、人数2~300人、あるいは100余人を持っている子侍としている(註8)。この時の平原城主は永禄十年の起請文からすると「信盛」か「昌忠」とみられる。

盛繁のころも徳川氏に属して、1585(天正13)年秀忠の上田城攻め、1600(慶長5)年の上田城攻めで、本多正信に属して戦功があったという(註3)。

本調査の注目される遺構はSD1溝の石積みである。軽石の石積みは、浅間山火山の麓、この地ならではの石材調達である。四角に整えた軽石の小口を表に積んで端正で、軽い石材のためかそれほどの裏込めを持っていない。しかし、東端の石積みは広い面を表に貼り付けおり、整っていない。後代に積み直したとみられ、溝の機能を復活させ、溝は二次利用されている。

次に面白いのはSD2堀である。調査区の曲輪西端に沿って南北に走るSD2堀は南では幅の広い深い大堀であるが、中ほどの平場3あたりは幅0.9m深さ2.0m、狭くて深い、壁は垂直、覆土は自然堆積で、堀内に遺構は見られない。平場1になると幅は近いが浅い溝となる。どのように溝が使われていたかわからないが、中心部を攻めるための「塹壕」と考えられる。遺物に年代の差異がないので時期は決定できなが、武田氏に焼き払われた後、16世紀後半以降に西側の曲輪の攻撃のために掘つたと推測してみたい。

(森泉かよ子)

註1. 宮坂武男『信濃の山城と館1 佐久編』201211.1 戎光祥出版株式会社

註2. 『源平盛衰記』鎌倉時代の軍記物語。四八巻。作者、成立年代ともに未詳。源平の興亡、盛衰を多くの挿話、伝説、故事をまじえつつ描く。「平家物語」の異本の一つとみられる。

註3. 小諸市教育委員会『小諸市誌 歴史編(2)』昭和59年3月1日

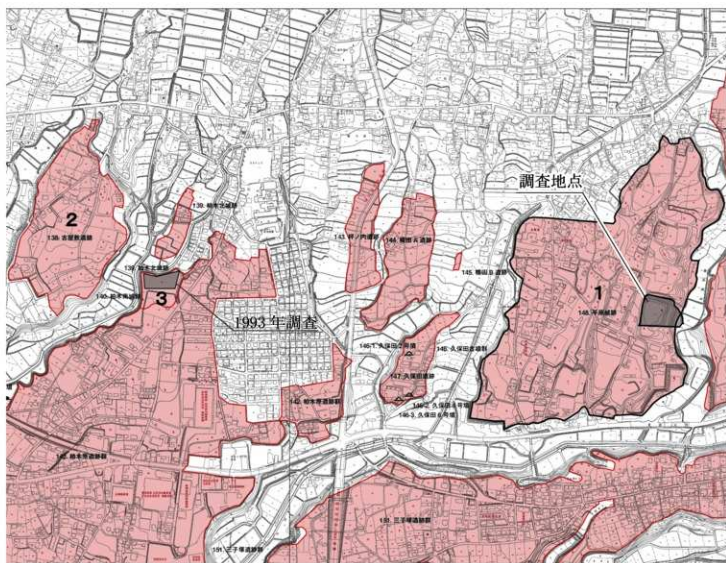
註4. 『佐久市志 歴史編(二) 中世』P.363 「佐久大井氏由緒」渡辺玄忠著

註5. 『信陽雜誌』巻の十八 吉沢好謙(よしざわ たかあき)著1736年(元文1)『四部譚載(しりんだんそう)』、44年(延享1)『信陽雜誌』、67年(明和4)『信濃地名考』など佐久郡に限らず信濃一国の歴史、地理の書を編纂。『高白斎記』は天文14年としている。

註6. 『高白斎記』(こうはくさいき)は、戦国時代の記録史料。甲斐武田氏の用務日誌などを基に成立したと考えられている日記。『高白斎』は、原筆者と考えられている武田家臣駒井政武の号。別称に『甲陽日記』、『高白斎日記』。

註7. 『寛政重修諸家譜』(かんせいちょうしゅうしょかふ)は、寛政年間(1789年-1801年)に江戸幕府が編修した大名や旗本の家譜集である。1,530巻。

註8. 『依田記』依田信蕃(のぶしげ)の武功を中心に記述されたもの。



第4図 周辺遺跡分布図 (1:10,000)

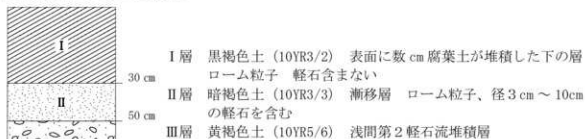
No.	遺跡名	所在地	種別			時代						
			散布地	集落跡	城館跡	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世
1	平原城跡	平原字城 ほか	○		○	○					○	
2	古屋敷	柏木字北古屋敷 ほか	○			○				○	○	
3	柏木南城跡	柏木字西前田			○						○	

第1表 周辺遺跡一覧表

第3章 基本層序

平原城跡は、浅間山の南西の緩い掘野に位置し、南北方向の田切に挟まれた台地上に位置する。今回調査した地点の標高は、760 m前後を測る。遺跡の基盤をなす層は北東に聳える浅間山が噴き出した火砕流の堆積層で、遺構確認は本層上面において行った。

基本層序は以下のとおりである。



第5図 層序模式図

第4章 遺構と遺物

Ta1 号竪穴建物址

(遺構)

調査区の北側で検出された。プランは南北に長い隅丸方形を呈し、東西残長 4 m 22cm、南北 6 m 50cm を測る。傾斜下方、東側では後世の浸食を受け、壁が検出されなかった。壁高は最も残っている北西隅で 22cm を測る。壁柱穴と見られるピットが 12 基検出された。P1、P3、P7、P8 からは柱痕が見られ、深さ 15cm ~ 33cm を測る。また、礎石柱とみられる河原石が 4 個床面にあり、柱当たりの摩耗が見られた。床面は西側では堅緻な箇所も見られた。東側は概して脆弱で、壁は確認できなかった。

(遺物)

本遺構からは、内耳土器の口縁部片が 1 点出土している。また、長辺 60cm 前後の、礎石として利用された扁平な川原石が 4 点、安山岩製の石搦鉢が 1 点確認された。

SD1 号溝状遺構

(遺構)

調査区中央部で調査区を東西に貫くかたちで検出された。平場 1、平場 2 の南端にあたり長さ 34 m を測る。大きな特徴は、溝の側面を補強するかたちで、129 個の軽石が石積みとして使われている点である。西側では検出されなかったが、東側平場 2 からはほぼ全域で確認されている。おそらく築城時は、確認されなかった西の側面にも石積みがされていたと考えられる。検出された軽石は幅 50cm、高さ 40cm、厚さ 15cm 前後に調整されたものが目立った。なお、東の石積み 11 m は積み方が異なり、積み直しされたものとみられる。石積みのある東側の溝幅は 38cm ~ 84cm (掘方の幅 100cm)、深さは最深部で 68cm、石積みの無い西側の溝幅は 128cm ~ 230cm、深さは最深部で 80cm を測る。なお、東側石積み橋脚部分では、溝幅 104cm ~ 118cm、深さは最深部で 104cm を測る。

(遺物)

出土遺物には、縄文土器片 1 点、須恵器片 2 点、内耳土器片 8 点、カワラケ片 5 点、陶磁器片 10 点 (常滑 3 点、青白磁梅瓶 2 点、古瀬戸小壺・古瀬戸平碗・中国産天目茶碗・青磁輪花皿・中国産青磁は各

1点)がある。石製品では、茶臼・粉挽臼・磨石・砥石・打製石斧がある。いずれも火熱を受けている。石積みとして残っていた軽石のほか、遺構底部から安山岩が33個出土している。

SD2号堀状遺構

(遺構)

調査区西端でSD1号溝状遺構とは直角に交わっている。長さ65m、幅80cm～6m20cmを測る。深さは最深部で2m40cmを測る。SD1号溝状遺構に見られた石積みは検出されなかった。

(遺物)

土師器杯片1点、カワラケ片2点と、陶磁器片4点(常滑・古瀬戸四耳壺・古瀬戸鉤皿・中国産白磁皿が各1点)、銭貨(熙寧通寶)1点、石製品(凹石・スリ石・碁石)が出土している。

SD3号溝状遺構

(遺構)

調査区の中央部で検出された。溝はL字型を呈し、SD1号溝状遺構に接する。また、溝周辺、特に南側にはビットが数基検出された。

(遺物)

陶磁器片1点が出土している。

土坑

本調査区からは、合計19基の土坑が検出された。位置的には、疎密の差はあるが平場2南端、平場3東端、平場4・5に検出された。各土坑の詳細については第2表で示した。

No.	土坑No.	平面形	規模(cm)			出土遺物	備考
			東西	南北	深さ		
1	SK1	不整長楕円形	61	139	20		SK2と重複
2	SK2	長楕円形	98	188	39		SK1と重複
3	SK3	不整楕円形	105	92	27	石製紡錘車、磨石	
4	SK4	不整円形	106	100	20		
5	SK5	不整長方形	120	66	15	古瀬戸天目茶碗片2、青磁輪花皿片1	
6	SK6	不整長楕円形	110	90	15	石鑿鉢	
7	SK7	不整長楕円形	42	91	20	土師器杯片1	
8	SK8	不整形	158	390	72	土師器杯片1、台砥石(磨石)	
9	SK9	(欠)	-	-	-		-
10	SK10	不整楕円形	106	98	39	内耳土器片1	SK12、P23と重複 SK11と接する
11	SK11	不整双円形	40	82	24		SK10と接する
12	SK12	不整円形	49	48	11		SK10と重複 P23と接する
13	SK13	不整形	120	90	100		SD2と重複
14	SK14	不整長楕円形	69	41	6		
15	SK15	長方形	127	110	40	玉輪塔輪	P30と接する
16	SK16	不整長楕円形	71	120	-		
17	SK17	不整円形	115	110	-		
18	SK18	不整六角形	60	51	-		
19	SK19	不整五角形	48	51	10	常滑雙片2	P15と接する P17と重複
20	SK20	不整長方形	130	200	-		P24と重複 SK19、P15、P18と接する

第2表 土坑計測表

ビット

Ta1に伴うビット以外のビットについては、合計30基検出された。位置的には、疎密の差はあるが平場2南端、平場3東端、平場4・5に検出された。各ビットの詳細については第3表で示した。

No.	ビット No.	平面形	規模(cm)			出土遺物	備考
			東西	南北	深さ		
1	P1	不整円形	40	36	24		
2	P2	不整楕円形	28	20	40		
3	P3	不整楕円形	60	60	20		
4	P4	不整円形	28	24	28		
5	P5	不整楕円形	28	20	24		
6	P6	不整楕円形	32	52	40		
7	P7	不整楕円形	24	36	36		
8	P8	不整形	80	32	44		
9	P9	不整円形	36	36	22	スリ面のある石	
10	P10	不整楕円形	40	50	40		
11	P11	不整円形	36	36	28		
12	P12	不整楕円形	50	36	28		
13	P13	不整楕円形	40	36	24		
14	P14	不整四辺形	115	69	17	銭貨4(開寧元寶、太平通寶、洪武通寶、ほか1枚)	
15	P15	不整円形	30	30	-		SK19と重複 SK20と接する
16	P16	不整五角形	63	67	27		
17	P17	不整円形	20	30	-		SK19と重複
18	P18	不整楕円形	50	30	-		SK20と接する
19	P19	不整円形	25	25	-		SK20と重複
20	P20	不整円形	30	40	-		
21	P21	不整円形	45	40	-		
22	P22	不整形	108	90	-		
23	P23	不整円形	42	41	30		SK10と重複 SK12と接する
24	P24	不整楕円形	50	30	-		SK20と重複
25	P25	不整形	47	49	14		
26	P26	正方形	30	29	15		
27	P27	長楕円形	54	41	34		
28	P28	不整長楕円形	68	40	37		
29	P29	不整円形	35	33	43		
30	P30	楕円形	40	30	40	内耳土器片1	SK15と接する

第3表 ビット計測表

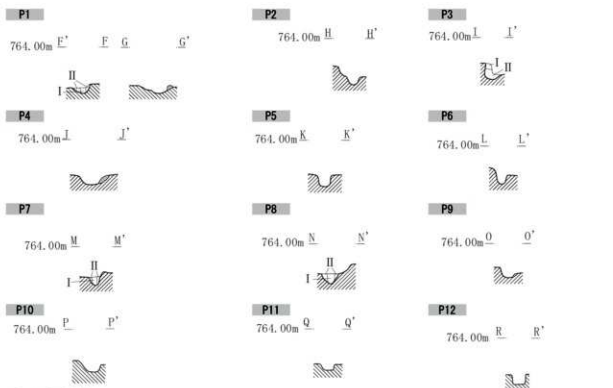


第5図 平原城跡全体図 (1:300)

余 白



第6-1図 Ta1号竪穴建物址 実測図 (1:80)



ピット土層説明

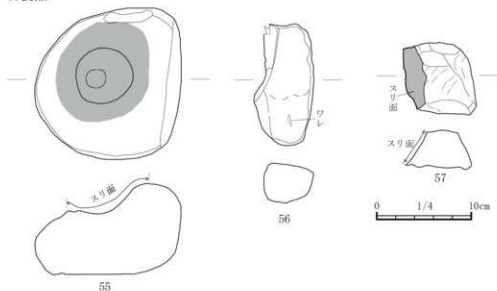
- I 褐色土 (10TR4/4) ややしまる ローム含む φ 0.5cm ~ 2cm 軽石 1%
 II 褐色土 (10TR4/6) しまる ローム多く含む φ 0.5cm ~ 10cm 軽石 5%、5cm 多い

第6-2図 Ta1号竪穴建物址 実測図 (1:80)

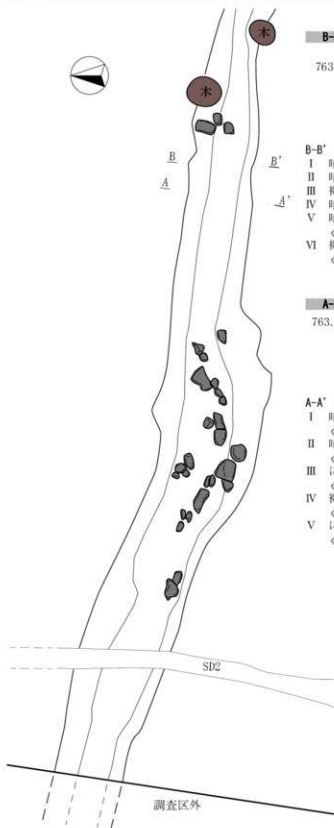
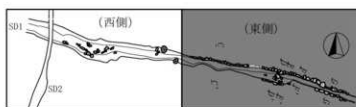
土器



石製品



第7図 Ta1号竪穴建物址 出土遺物実測図



B-B'

763.50m B B'

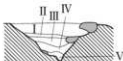


B-B' 土層説明

- I 暗褐色土 (10YR3/4) 礫 軽石φ 0.5cm ~ 5cm 3%
- II 暗褐色土 (10YR3/4) 礫 軽石φ 0.5cm ~ 1cm 2%
- III 褐色土 (10YR4/4) ローム混じる
- IV 暗褐色土 (10YR3/3) 砂質 ゆるい φ 0.5cm ~ 5cm 軽石 7%
- V 暗褐色土 (10YR3/3) 粒大きな砂質 ゆるい φ 0.5cm ~ 1cm 礫、軽石 10%
- VI 褐色土 (10YR4/4) 砂質、ローム混じり φ 0.5cm ~ 1cm 軽石 5%

A-A'

763.50m A A'

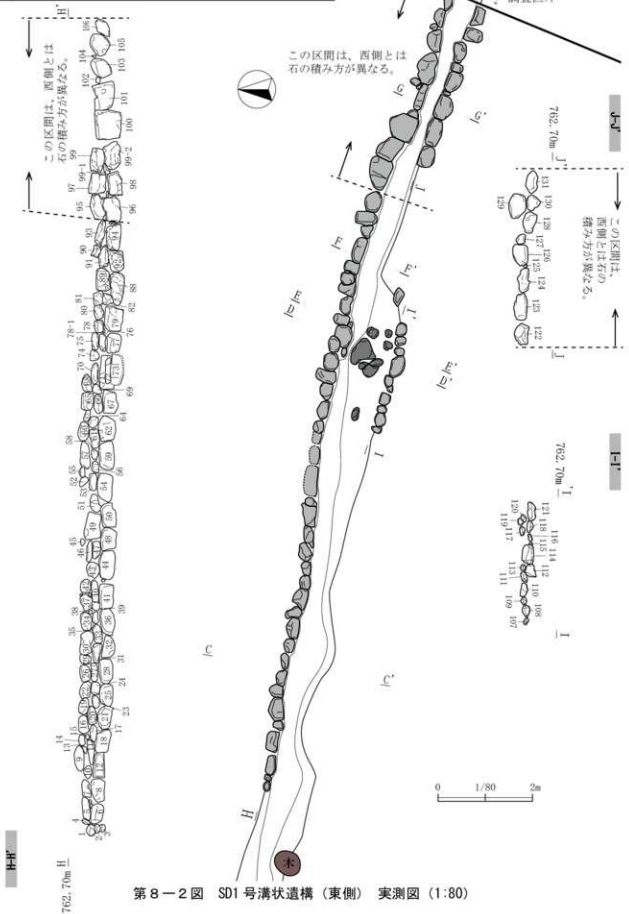
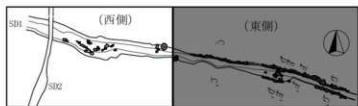


A-A' 土層説明

- I 暗褐色土 (10YR3/4) 砂少ない (ローム) しまる φ 0.5cm ~ 1cm 軽石 1%
- II 暗褐色土 (10YR3/4) ローム 砂質混じる φ 0.5cm ~ 1cm 軽石、礫 3%
- III にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 砂質 ややローム混じる φ 0.5cm ~ 2cm 軽石、礫 7%
- IV 褐色土 (10YR4/4) ローム 砂質混じる φ 0.5cm ~ 1cm 軽石、礫 3%
- V にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 砂質粒大 もろい φ 0.5cm ~ 2cm 礫 7%

0 1/80 2m

第8-1図 SD1号溝状遺構 (西側) 実測図 (1:80)



第8-2図 SD1号溝状遺構 (東側) 実測図 (1:80)

G-G'

32.70m G

G'



G-G' 土層説明

- I 黒褐色土 (10YR2/3) ϕ 1mm ~ 2mm 軽石 7% ϕ 1cm 軽石 2%
 II 荒粒砂 III層及び2cm ~ 3cm 軽石 40%混
 III 荒粒砂
 VI 褐色土 (10YR4/6) ϕ 1mm ~ 2mm 大軽石 7% ϕ 1cm 軽石 2% しまりあり
 V 暗褐色土 (10YR3/3) ϕ 1mm ~ 2mm 軽石 7% 褐色土 (10YR4/6) ブロック 5%混
 しまりあり
 IV 黒褐色土 (10YR2/3) シルト質 粘性あり

F-F'

62.70m F

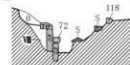
F'



E-E'

762.70m E

E'



D-D'

762.70m D

D'



C-C'

763.50m C

C'



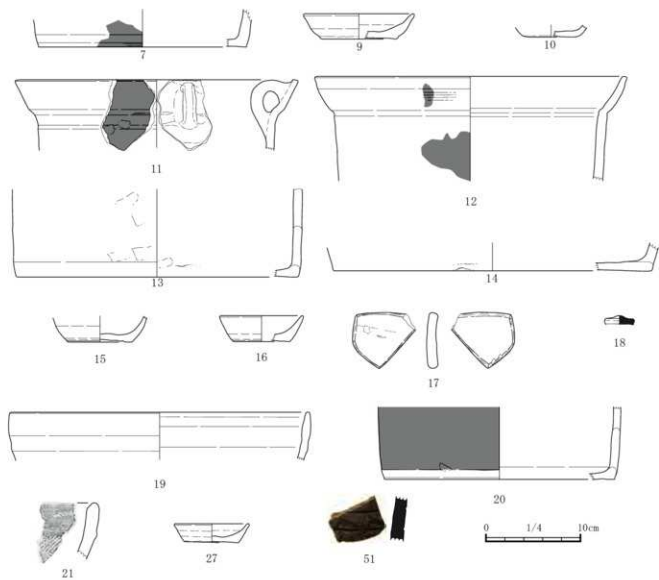
0 1/80 2m

C-C' 土層説明

- O 褐色土 (10YR4/4) ϕ 2cm 大軽石 5%混
 I 暗褐色土 (10YR3/4) 砂 ϕ 5mm 大軽石 50%以上混
 II I層に ϕ 3cm 大の軽石 50%混
 III にぶい黄褐色土 (10YR6/3)
 IV II層に荒粒砂 50%以上混
 V 荒粒砂
 VI 暗褐色土 (10YR3/4) ϕ 2cm 大軽石 5%混 荒粒砂混
 VII 暗褐色土 (10YR3/4) ϕ 3cm 大軽石 50%混 荒粒砂混
 VIII 褐色土 (10YR4/6) ϕ 2cm 大軽石 5% ϕ 5mm 大軽石 25% かたくしまる 裏込
 IX 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり 粘性が強い黒褐色土 (10YR2/3) 40%混
 特に石上面の各石のすき間に充てんされている

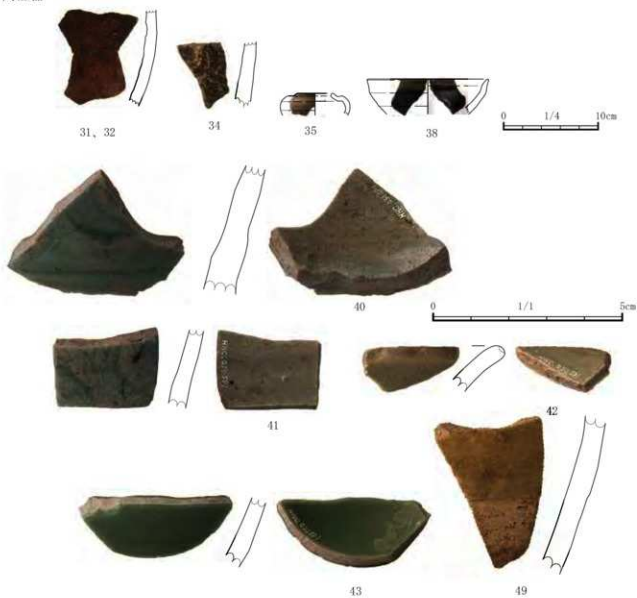
第8-3図 SD1号溝状遺構(東側) 実測図(1:80)

土器



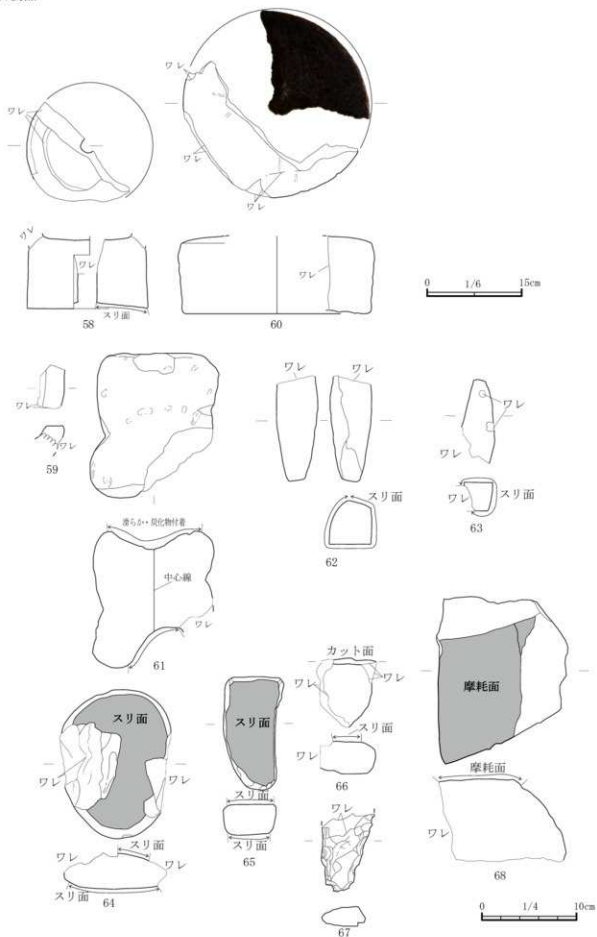
第9—1图 SD1号溝状遺構 出土遺物実測図

陶磁器

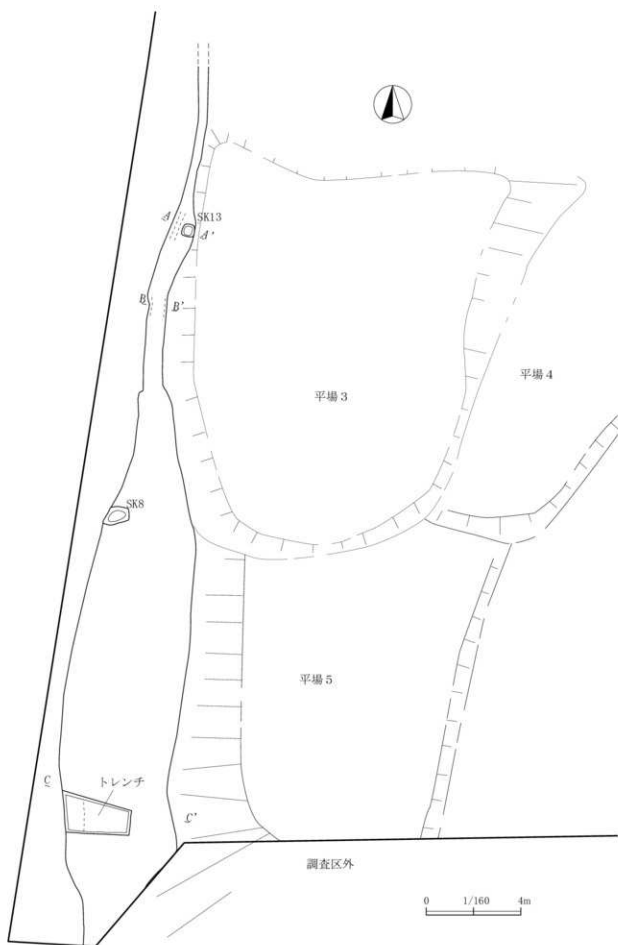


第9—2图 SD1号沟状遺構 出土遺物実測図

石製品



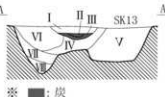
第9-3図 SD1号溝状遺構 出土遺物実測図



第 10 - 1 図 SD2 号堀状遺構 実測図 (1:160)

A-A'

762.20m A'

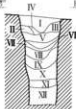


A-A' 土層説明

- I 褐色土 (10YR4/4) 0.5cm ~ 1cm 軽石 2%
 II 暗褐色土 (10YR3/3) しまる 0.5cm ~ 3cm 軽石 2% 炭 5%
 III 暗褐色土 (10YR3/4) しまる 0.5cm ~ 1cm 軽石 3% ローム、炭少
 IV 褐色土 (10YR4/6) 砂質ゆるい 0.3cm ~ 0.5cm 軽石 2%
 V にぶい黄褐色土 (10YR7/4) ピンクローム含む ゆるい
 ϕ 0.5cm ~ 3cm 軽石
 VI にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 砂質 ピンクローム含む ゆるい
 ϕ 0.5cm ~ 3cm 軽石
 VII 褐色土 (10YR4/4) ピンクローム含む ϕ 0.5cm ~ 3cm 軽石 5%
 VIII 褐色土 (10YR4/6) やや砂質 ピンクローム含む ゆるい
 ϕ 0.5cm ~ 2cm 軽石 3%

B-B'

762.70m B'

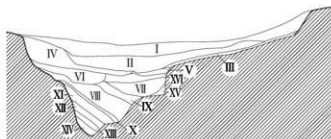


B-B' 土層説明

- I 暗褐色土 (10YR3/4) ややしまる やや砂質 ϕ 0.5cm ~ 3cm 軽石中央に集中 10%
 II 暗褐色土 (10YR3/4) ややしまる ϕ 0.5cm 程度の軽石 1%
 III 黄褐色土 (10YR5/6) ややしまる ピンクローム混じる ϕ 0.5cm ~ 10cm 軽石 1%
 IV 明黄褐色土 (10YR6/6) しまるがもろい ピンクローム多 ϕ 0.5cm ~ 3cm 軽石 2%
 V 褐色土 (10YR4/6) しまるがもろい やや砂質 ピンクロームブロック 5%
 ϕ 0.5cm ~ 1cm 軽石 2% 中央多い
 VI 黄褐色土 (10YR5/6) しまるがもろい ピンクローム多 0.5cm ~ 3cm 軽石 5% 中央多い
 VII 褐色土 (10YR4/4) しまるがもろい やや砂質 ϕ 0.5cm ~ 5cm 軽石 2% 中央多い
 VIII 黄褐色土 (10YR5/6) ゆるい やや砂質 ピンクローム混じる ϕ 0.5cm ~ 1cm 軽石 2%
 IX 明黄褐色土 (10YR6/6) ゆるい ピンクローム ϕ 0.5cm ~ 1cm 軽石 2%
 褐色 (10YR4/4) ブロック 5%
 X にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ゆるい 砂質 ピンクローム、黄ローム含む
 ϕ 0.5cm ~ 3cm 軽石 3%
 XI 明黄褐色土 (10YR6/6) ゆるい やや砂質 ピンクローム ϕ 0.5cm ~ 1cm 軽石 3%
 XII にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ゆるい 砂質 (荒い) 強い 黄ローム含む
 ϕ 0.5cm ~ 3cm 軽石 5%

C-C'

762.00m C'



C'

C-C' 土層説明

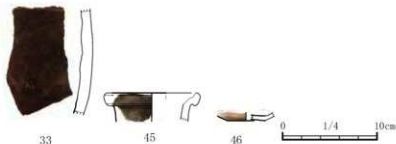
- I 褐色土 (10YR4/4) しまる ϕ 0.5cm ~ 1cm 軽石 3%
 II 暗褐色土 (10YR3/3) ややゆるい ϕ 0.5cm ~ 1cm 軽石 7%
 III にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ゆるい シルト質 ローム混じる ϕ 0.5cm ~ 3cm 軽石 2%
 IV にぶい黄褐色土 (10YR7/4) ややしまる やや砂質 ピンクローム含む ϕ 0.5cm ~ 1cm 軽石 3%
 V よりは弱いが硬化している レキ含む
 V にぶい黄褐色土 (10YR7/4) よくしまる 硬化面 やや砂質 ピンクローム含む ϕ 0.5cm ~ 1cm 軽石 3% レキ含む
 VI 褐色土 (10YR4/4) ややしまる ϕ 0.5cm ~ 10cm 軽石 3%
 VII 褐色土 (10YR4/4) ややゆるい やや砂質 ピンクローム含む ϕ 0.5cm ~ 20cm 軽石 5%、底にたまる
 VIII にぶい黄褐色土 (10YR7/4) ゆるい 砂質 ピンクローム多く含む ϕ 0.5cm 程度軽石 5%、底に多い
 IX 褐色土 (10YR4/4) しまる ややシルト質 ϕ 0.5cm ~ 3cm 軽石 2%
 X 褐色土 (10YR4/4) ややしまる シルト質 ϕ 0.5cm ~ 1cm 軽石 2%
 XI にぶい黄褐色土 (10YR7/4) ゆるい 砂質粒大 ピンクローム多く含む ϕ 0.5cm 程度軽石、レキ 3%、底多い
 XII にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ゆるい 砂質粒小 ピンクロームやや少ない
 XIII にぶい黄褐色土 (10YR7/4) ゆるい 砂質粒大 ピンクローム、黄ローム多く含む
 ϕ 0.5cm 程度軽石、レキ 3%、底多い
 XIV 明黄褐色土 (10YR6/6) ゆるい 砂質粒小 黄ローム
 XV にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ややしまる シルト質 ピンクローム混じる ϕ 0.5cm ~ 5cm 軽石 3%
 XVI 暗褐色土 (10YR3/4) しまる ピンクロームブロック 3% 上層IV、Vまじり ϕ 0.5cm ~ 10cm 軽石 15%

第10-2図 SD2号堀状遺構 実測図 (1:80)

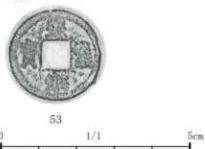
土器



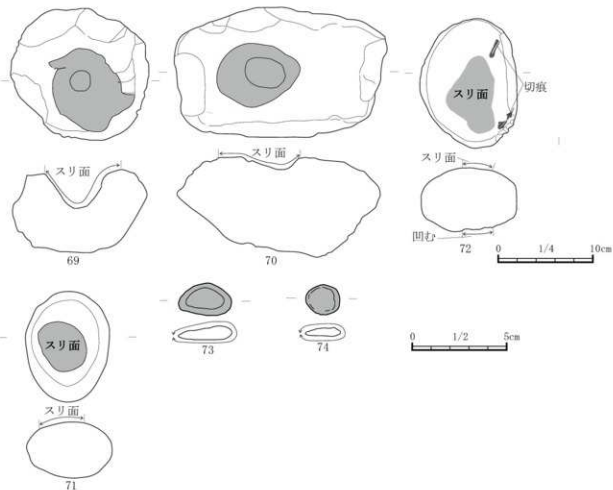
陶磁器



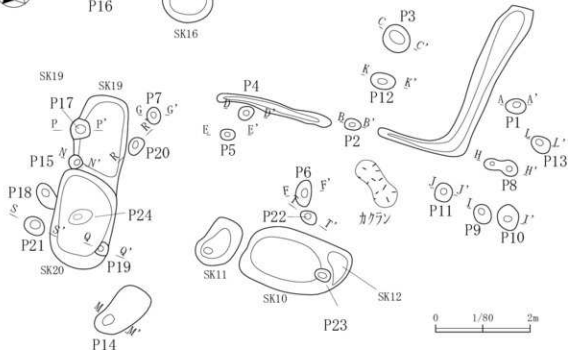
銭貨



石製品



第11図 SD2号掘状遺構 出土遺物実測図

**P1**

A A'

**P1 土層説明**

- I 暗褐色土 (10YR3/4) ややしまる
φ 1cm ~ 3cm 軽石 3%
- II 褐色土 (10YR4/6) ややもろい
ローム混じる φ 1cm ~ 3cm 軽石 2%

P2

B B'

**P3 土層説明**

- I 暗褐色土 (10YR3/4)
ロームブロック含む
φ 0.5cm ~ 1cm 軽石 1%

P4

D D'

**P4 土層説明**

- I 褐色土 (10YR4/4) 炭含む ややしまる
φ 1cm ~ 2cm 軽石 2%
- II 褐色土 (10YR4/6) ローム含む ややもろい
φ 1cm ~ 5cm 軽石 3%

P5

E E'

**P5 土層説明**

- I 褐色土 (10YR4/4) φ 15cm レキ、
φ 10cm 軽石、炭化物含む
軽石を掘り削っている?

P6

F F'

**P6 土層説明**

- I 褐色土 (10YR4/4) ややしまる ローム混じる
φ 1cm ~ 5cm 軽石 5%
- II 黄褐色土 (10YR5/6) ややもろい、ローム多く混じる
φ 1cm ~ 10cm 軽石 7%

P7

G G'

**P7 土層説明**

- I 褐色土 (10YR4/4) ややしまる
φ 0.5cm ~ 2cm 軽石 2%、炭化物含む
- II 暗褐色土 (10YR3/4) ゆるい
φ 1cm ~ 10cm 軽石

P8

H H'

**P9, P10**

L L'

**P11**

J J'

**P12**

K K'

**P12 土層説明**

- I P7 I層と同じ
- II P7 II層と同じ

P13

L L'

**P13 土層説明**

- I 暗褐色土 (10YR3/4) ローム含む ゆるい
φ 0.5cm ~ 2cm 軽石 1%
- II 褐色土 (10YR4/4) ローム多く含む
φ 1.5cm ~ 15cm 軽石 3%

P14

762.30m M M'

**P14 土層説明**

- I 黒褐色土 (10YR2/3) 褐色土 (10YR4/6) 20%混
φ 5mm 軽石 5%
- II 褐色土 (10YR4/6) φ 3cm 軽石 10%

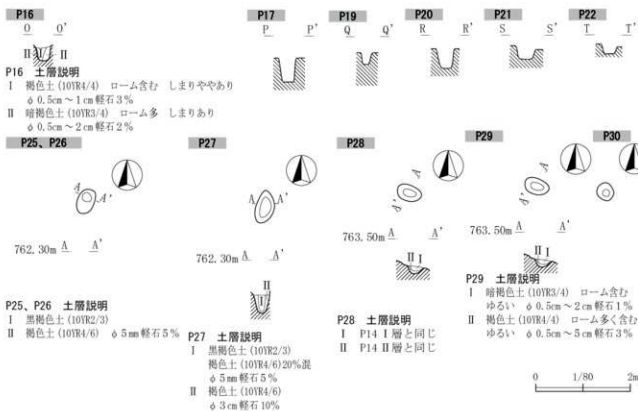
P15

762.30m N N'

**P15 土層説明**

- I 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭化物混

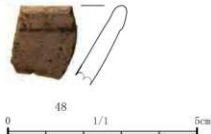
第 12-1 図 SD3号溝状遺構、ピット 実測図 (1:80)



第12-2図 SD3号溝状遺構、ビット 実測図(1:80)

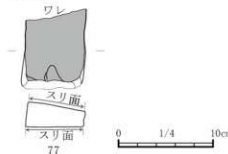
SD3 出土遺物

陶磁器



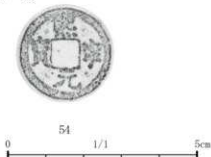
P9 出土遺物

石製品



P14 出土遺物

銭貨



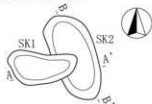
P30 出土遺物

土器



第13図 SD3号溝状遺構 出土遺物実測図

SK1号土坑、SK2号土坑



762.30m A A' B B'



SK1号土坑 土層説明

I 暗褐色土 (10YR3/3)

SK2号土坑 土層説明

II 黒褐色土 (10YR2/3) 褐色土 (10YR4/6) 20%混 φ 5mm 軽石 5%

III 褐色土 (10YR4/6) φ 3cm 軽石 10%



SK3号土坑



762.30m A A' B B'

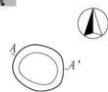


SK3号土坑 土層説明

I SK2 II層と同じ

II SK2 III層と同じ

SK4号土坑



762.30m A A' B B'



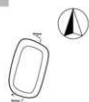
SK4号土坑 土層説明

I 暗褐色土 (10YR3/4)

褐色土 (10YR4/6) 20%、にぶい

黄褐色土 (10YR6/3) 7%混

SK5号土坑



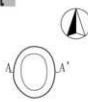
762.30m A A' B B'



SK5号土坑 土層説明

I 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土、炭化物混

SK6号土坑



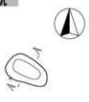
762.30m A A' B B'



SK6号土坑 土層説明

I 暗褐色土 (10YR3/4) φ 3cm 軽石 2%

SK7号土坑



762.70m A A' B B'



SK7号土坑 土層説明

I 暗褐色土 (10YR3/4) ローム混じり

ややしまる φ 0.5cm ~ 1cm 軽石 2%

II にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム主体

褐色 (10YR4/4) ブロック含む 2% ゆるい

φ 0.5cm ~ 2cm 軽石 2%

SK8号土坑



762.00m A A' B B'



SK8号土坑 土層説明

I 褐色土 (10YR4/4) ゆるい、黄ローム含む

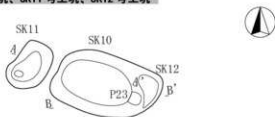
φ 0.5cm ~ 5cm 軽石 3%

II 黒褐色土 (10YR2/3) ややしまる 粘性あり

ローム含まない φ 5cm ~ 20cm 軽石 3%

土器含む

P23、SK10号土坑、SK11号土坑、SK12号土坑



762.70m A A' B B'



P23、SK10、11、12号土坑 土層説明

I 暗褐色土 (10YR3/4) しまるがもろい、ピンクロームやや混 φ 0.5cm ~ 3cm 軽石 2%

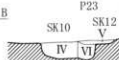
II 黄褐色土 (10YR5/6) しまるがややもろい、ピンクローム混 φ 0.5cm ~ 10cm 軽石 5%

III 褐色土 (10YR4/6) しまるがややもろい、ピンクローム混 φ 0.5cm ~ 5cm 軽石 3%

IV 黄褐色土 (10YR5/6) しまるがややもろい、ピンクローム混 φ 0.5cm ~ 15cm 軽石 10%

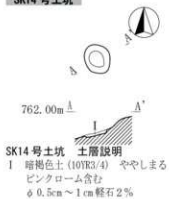
V 褐色土 (10YR4/4) ややしまる ローム多く含む φ 0.5cm ~ 10cm 軽石 3%

VI 暗褐色土 (10YR3/4) ロームやや含む φ 1cm ~ 2cm 軽石 1%

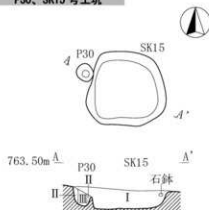


第14-1図 土坑 実測図 (1:80)

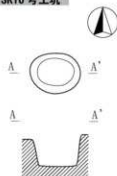
SK14号土坑



P30、SK15号土坑



SK16号土坑



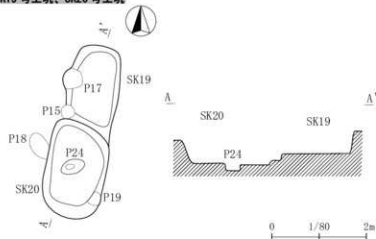
SK17号土坑



SK18号土坑



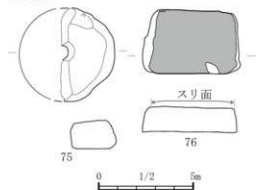
SK19号土坑、SK20号土坑



第14-2図 土坑 実測図 (1:80)

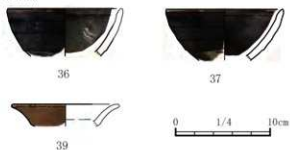
SK3 号土坑出土遺物

石製品



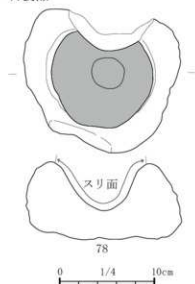
SK5 号土坑出土遺物

陶磁器



SK6 号土坑出土遺物

石製品



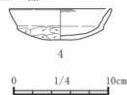
SK7 号土坑出土遺物

土器

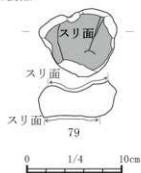


SK8 号土坑出土遺物

土器

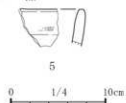


石製品



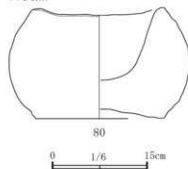
SK10 号土坑出土遺物

土器



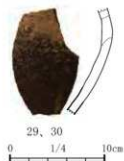
SK15 号土坑出土遺物

石製品



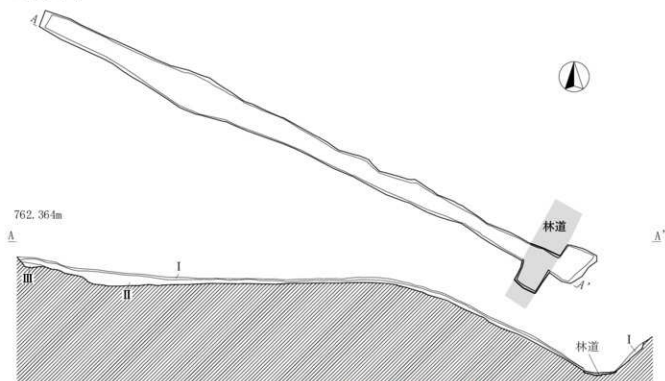
SK19 号土坑出土遺物

陶磁器



第 15 図 土坑 出土遺物実測図

トレンチ 1



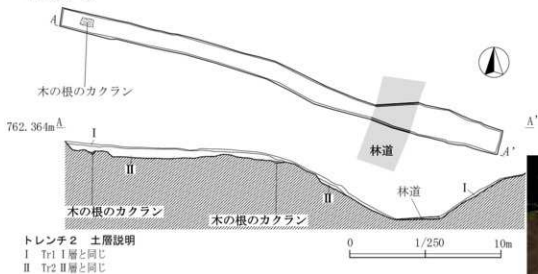
トレンチ 1 土層説明

- I 黒褐色土 (10YR2/3) 腐葉土混ざる
- II 暗褐色土 (10YR3/3) ϕ 5 cm 大の軽石 5% しまり弱い
- III 黒褐色土 (10YR3/2) しまりやや弱い



トレンチ 1 写真 (南東より)

トレンチ 2



トレンチ 2 土層説明

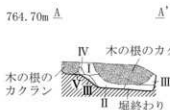
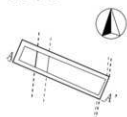
- I Tr1 I層と同じ
- II Tr2 II層と同じ



トレンチ 2 写真 (西より)

第 16-1 図 トレンチ 実測図 (1:80)

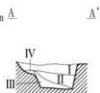
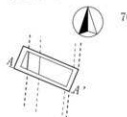
トレンチ 3



トレンチ 3 土層説明

- I 褐色土 (10YR4/6)
- II 暗褐色土 (10YR3/4)
- III 暗褐色土 (10YR3/4) 粗粒砂混
- IV 明褐色土 (7.5YR5/8)
- V 明黄褐色土 (10YR6/6) と褐色土 (10YR4/4) まだらにまじる
かたくしまる 整地層

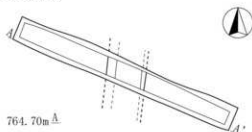
トレンチ 4



トレンチ 4 土層説明

- I Tr3 I層と同じ
- II Tr3 II層と同じ
- III Tr3 III層と同じ
- IV Tr3 IV層と同じ

トレンチ 5



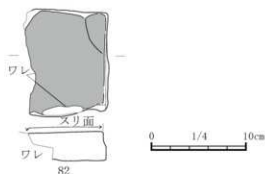
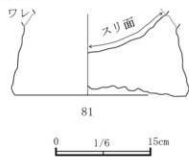
トレンチ 5 土層説明

- I Tr3 I層と同じ
- II Tr3 II層と同じ
- V Tr3 V層と同じ
- VI 褐色土 (10YR4/6)
- VII 褐色土 (10YR4/4) 黄褐色土 (10YR5/6) 30%混 かたくしまる 土壘か?

第16-2図 トレンチ 実測図 (1:80)

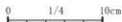
トレンチ 1 出土遺物

石製品



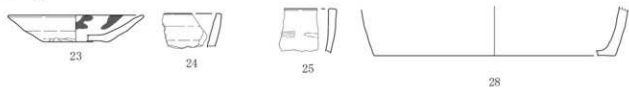
トレンチ 2 出土遺物

土器



第17図 トレンチ 出土遺物実測図

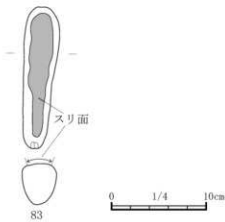
土器



陶磁器



石製品



第 18 図 遺構外 出土遺物実測図

第2表 遺物観察表

土器 < > ; 現在値 () ; 推定値

番号	遺物	種類	器種	容量 (cm)		残存	調整		内面	底面	構成	色調		付属時代	備考
				口径	器高		外面	内面				外	内		
1	Tt2	土師器	内耳	-	0.60	-	口縁1/20	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄褐色	黒褐色	16C	外反あり	
2	Ts1	土師器	内耳	-	0.90	-	口縁破片	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	灰褐色	灰褐色	15C後半	カワラケのみ	
3	SK7	土師器	坏	(0.8)	1.4	(6.0)	口縁・口ワラケ 体部下半へ底面へ、ラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	やや軟	灰褐色	灰褐色	古墳か	底面を傷めるものもある	
4	SK8	土師器	坏	10.8	3.3	-	口縁ヨコナデ 体部・底面手付かへ、ラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	褐色	褐色	古墳か	外面わずかに煤付着?	
5	SK10	土師器	内耳	-	0.80	-	口縁破片	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	15C後半	外反あり	
6	P30	土師器	内耳	-	0.00	-	耳破片	ナデ	ナデ	良好	黒褐色 耳底付付	黒褐色	16C中頃		
7	SD1	土師器	内耳	-	(4.0)	(25.0)	底面1/9残存	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黒褐色 灰褐色	黒褐色	16C	外面スス付着	
8	SD2	土師器	坏	11.0	0.60	-	口縁1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	褐色	褐色	古墳か	No.40混入したか	
9	SD1	土師器	カワラケ	(0.4)	2.7	(8.2)	1/7残存	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黒褐色	黒褐色	16C前半		
10	SD1	土師器	カワラケ	-	(3.0)	(6.0)	底面1/5残存	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	灰褐色	灰褐色	15C～16C	内側に藍さいが付着、 埋填に転用	
11	SD1	土師器	内耳	-	(7.0)	-	口縁～胴部、 耳	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黒色	にぶい黄褐色	15C後半	外面スス付着	
12	SD1	土師器	内耳	(3.2)	(0.1)	-	口縁1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	15C後半	外面スス付着	
13	SD1	土師器	内耳	-	(6.3)	(26.0)	底面1/12残存	ナデ	ナデ	良好	褐色	褐色	15C～16C		
14	SD1	土師器	内耳	-	(3.0)	(33.0)	底面1/8残存	ナデ	ヨコナデ	良好	褐色	褐色	16C	外面スス付着	
15	SD1	土師器	カワラケ	-	(3.8)	7	底面1/4	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	灰褐色	灰褐色	15C後半		
16	SD1	土師器	カワラケ	(6.8)	2.7	(6.0)	1/3残存	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黒褐色	黒褐色	15C後半		
17	SD1	土師器	内耳	-	(6.6)	-	破片	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	灰褐色	灰褐色	15C～16C	射口丁寧な研磨、 二次利用	
18	SD1	須恵器	壺	3.1	(1.0)	-	胴のみ残存	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	暗灰色	暗灰色	16C前半		
19	SD1	土師器	内耳	(2.0)	(5.1)	-	口縁1/12	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	暗灰色	暗灰色	16C前半		
20	SD1	土師器	内耳	-	(7.7)	(24.0)	底面1/5残存	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黒色 ～暗灰色	にぶい黄褐色	16C	外面スス付着	
21	SD1	縄文	縄文	-	-	-	破片	ナデ	ナデ	良好	赤褐色	赤褐色	縄文		
22	SD2	土師器	カワラケ	(0.6)	2.8	(7.0)	1/6残存	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	淡黄色	淡黄色	16C前半	外反あり	
23	遺構外	土師器	カワラケ小	(0.4)	2.8	(7.0)	1/4残存	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	中世	龍瓦用か 灯明用に転用	
24	表探	土師器	内耳	-	(3.0)	-	口縁破片	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	暗灰色	暗灰色	15C後半	一部スス付着	
25	表探	土師器	火鉢小	-	(4.7)	-	口縁破片	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黒色	黒色	不明	磨きあり	
26	SD2	土師器	カワラケ	(7.8)	(1.0)	-	口縁1/9残存	ヨコナデ	ヨコナデ	やや軟	淡黄褐色	淡黄褐色	16C		
27	SD1	土師器	カワラケ	7.8	2.0	5.6	9/10残存	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黄褐色	黄褐色	15C後半 ～16C初頃		
28	遺構外	土師器	内耳	-	(4.7)	-	口縁破片	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黒褐色	黒褐色	15C後半 ～16C		
51	SD1	須恵器	壺	-	(4.8)	-	胴部破片	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	地：黄灰色 白蒸釉	地：黄灰色 白蒸釉	ヨコナデ		

陶磁器 < > : 現在直 () : 推定直

番号	遺構	器種	器類	法量 (cm)		残存	調整		焼成	色調		埴風時代	備考
				口径	器高		底径	外面		内面	外		
29 SK19	陶器	常滑甕		-	01.3	-	胴部破片	ヨコナデ	良好	施釉	褐色	中世	30と接合
30 SK19	陶器	常滑甕		-	00.1	-	胴部破片	ナデ	良好	赤褐色	褐色	中世	29と接合
31 SD1	陶器	常滑甕		-	01.3	-	胴部破片	ナデ	良好	赤褐色	褐色	中世	32と接合
33 SK2	陶器	常滑甕		-	0.9	-	胴部破片	ナデ	良好	暗赤褐色	褐色	中世	31と接合
34 SD1	陶器	常滑甕		-	0.23	-	口縁	ヨコナデ	良好	灰オリーブ	暗褐色	中世	外面：釉
35 SK5	陶器	古瀬戸	小壺	0.8	0.23	-	口縁	ヨコナデ	良好	地：赤灰色	釉：黒褐色	15C	全面施釉
36 SK5	陶器	古瀬戸	文目茶碗	12.2	0.0	-	口縁	ヨコナデ、 体下半ヨコハケケズリ	良好	地：赤灰色	釉：黒褐色	15C末	外面：釉
37 SK5	陶器	古瀬戸	文目茶碗	02.4	0.4	-	口縁	ヨコナデ、 体下半ヨコハケケズリ	良好	地：灰白色	釉：黒褐色	15C末	外面：黒色付着物あり
38 SD1	陶器	中国産	天目茶碗	02.8	0.7	-	口縁	ヨコナデ	良好	釉：黒褐色	釉：黒褐色	中世	外面：釉
39 SK5	磁器	青磁	盥花皿	11.4	0.23	-	口縁	ヨコナデ	良好	全面施釉	黄褐色	15C後半	
40 SD1	磁器	青白磁	盥花皿	-	0.23	-	破片	ヨコナデ	良好	全面施釉	全面施釉	鎌倉	40、41同一個体か、 青磁品、ステータスシシボムか
41 SD1	磁器	青白磁	海碗	-	0.21	-	破片	ヨコナデ	良好	全面施釉	全面施釉	鎌倉	40、41同一個体か、 青磁品、ステータスシシボムか
42 SD1	磁器	髷花皿	海碗	-	0.22	-	口縁破片	ヨコナデ	良好	全面施釉	全面施釉	15C後半	
43 SD1	磁器	中国産	青磁	-	0.8	-	破片	ヨコナデ	良好	全面施釉	全面施釉	13Cか、 15C中頃	
44 表探	陶器	込付筒		0.0	4.7	0.0	底部	ヨコナデ、 面取りあり	良好	灰白	灰白	近代	面とり陶器近世以降
45 SK2	陶器	古瀬戸	四耳壺	0.8	0.2	-	口縁	ヨコナデ	良好	地： 灰白色	地： 灰白色	13C後半	
46 SK2	磁器	中国産	白磁皿	-	0.0	0.0	底部	ヨコナデ、 底部凹陥へケケズリ	良好	地： 灰白色	地： 灰白色	15C後半	
47 SK2	陶器	古瀬戸	即置	-	0.2	-	破片	ヨコナデ	良好	地： 灰白色	地： 灰白色	近世か	後期形式IV類古
48 SK3	陶器	不明		-	0.21	-	破片	ヨコナデ	良好	地： 灰白色	地： 灰白色	15C後半	外面：釉 近世誕生、佐久の油山焼か
49 SD1	陶器	古瀬戸	平碗	-	0.2	-	破片	ヨコナデ、 体下半凹陥へケケズリ	良好	地： 黄褐色	地： 藍色	15C	
50 遺構 外	陶器	鉢か		06.0	0.31	-	口縁	ヨコナデ	良好	地： 灰白色	地： 灰白色	近代	
52 表探	磁器	磁器	磁器	-	0.23	-	胴部残存	ヨコナデ	良好	地： 灰白色	地： 灰白色	近代	胴部径：2.6cm

藤沢良祐 1991「古瀬戸古窯址群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年」『研究紀要』X 瀬戸市歴史民俗資料館

鉢 貨

番号	遺構	器種	備考
53	SD2	古鉢	窯場通貫
54	PS	古鉢	4枚重なって出土（黒華元寶、太平通寶、洪武通寶、ほか1枚）

石製品 長さ (cm) : 現在値 () : 推定値

番号	遺構	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
55	Ta1	石臼鉢	15.9	15.5	9.6	2,785	安山岩 被熱あり
56	Ta1 P1	副石小	12.1	4.9	4.1	463	先端部にわずかな打痕あり 安山岩 全面に摩耗 被熱あり
57	Ta1 P1	副石	7.6	5.0	4.2	361	スリ面1面あり 被熱あり
58	SD1	米臼 (上臼)	下面: 20.0	-	11.5	2,395	臼下面はよく磨かれている 被熱あり 回転未測
59	SD1	米臼 (下臼)	<4.7>	<2.5>	<3.0>	35	被熱あり
60	SD1	臼挽臼 (下臼)	径: (30.0)	<15.4>	<12.3>	6,710	わずかに目が残るがはつきりしない 被熱あり 回転未測
61	SD1	ひで鉢小	<30.0>	<12.5>	<9.0>	844	磨石製 上・下両面あり、摩耗 片面の摩耗面に炭化物付着 表面にカット痕あり 被熱あり
62	SD1	砥石	<11.2>	4.5	4.5	292	緑閃岩 被熱あり 片側欠損
63	SD1	砥石	<8.9>	<3.5>	<3.0>	89	緑閃岩 被熱あり 片側欠損
64	SD1	磨石	15.8	12.0	3.7	921	両側面に割れている 炭化物付着 被熱あり
65	SD1	磨石・砥石	12.0	6.1	3.3	421	スリ面2 安山岩 被熱あり
66	SD1	磨石	<7.6>	<6.0>	<3.5>	95	スリ面・カット面あり 磨石 被熱あり
67	SD1	打製石斧	<8.3>	<5.6>	<2.0>	88	緑閃岩 両端欠損 被熱あり
68	SD1	摩耗面のある礫	17.8	14.0	8.7	3,080	安山岩 被熱あり
69	SD2	凹石	13.9	14.8	8.7	547	磨石製 被熱あり
70	SD2	凹石	22.5	12.4	10.6	1,266	磨石製 被熱あり
71	SD2	磨石	5.8	4.4	2.9	78	スリ面1 全体に摩耗 安山岩 被熱あり
72	SD2	磨石・砥石	13.8	10.2	6.2	645	するどい切傷6ヶ所あり 切傷に沿って割れ痕あり 磨面あり 凹みあり 被熱あり 安山岩
73	SD2	磨石	2.8	1.7	0.7	5	粘板岩 被熱あり
74	SD2	磨石	1.8	1.6	0.5	2	炭化物付着 粘板岩 被熱あり
75	SK3	石製紡錘車	3.4	5.0	1.3	9	被熱あり
76	SK3	磨石	<5.0>	(5.0)	<1.5>	47	安山岩 被熱あり
77	P5	スリ面のある石	<8.5>	<6.5>	<2.6>	342	安山岩 スリ面2 片側欠損 被熱あり
78	SK6	石臼鉢	<15.2>	17.0	8.3	2,135	安山岩 一部欠損 被熱あり
79	SK8	台砥石 (磨石)	7.1	8.2	3.8	199	安山岩 スリ面2 被熱あり
80	SK15	五輪塔 水輪	口径: (20.4)	底径: (20.0)	(17.2)	3,620	回転未測 黒色多孔質安山岩 被熱あり
81	Tr1	石鉢	口: <20.6>	底: (27.0)	<12.8>	4,660	多孔質安山岩 被熱あり
82	Tr1	磨石	<11.3>	<9.0>	3.1	526	安山岩 片側欠損 スリ面2 被熱あり
83	表探	スリ・砥石	14.8	3.7	4.4	386	被熱あり 安山岩

その他

番号	遺構	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
84	SD1	鉄滓	2.3		1.5	0.9	3
85	SD1	黒曜石欠じり	1.7		1.5	0.2	0.5g以下

第5章 総括

今回調査したのは、佐久地方の中世史において重要な位置を占めていた平原城の主郭と考えられている場所である。

当該曲輪は四方を谷のような堀に囲まれており、東側の堀に向かって傾斜する三角形の土地の頂部に平場を構築し、建物を建てている。俯瞰すると平場はSD1により南北に空間を区画されており、南と北のそれぞれの空間では、さらに複数の平場が構築されている。すなわち、SD1の北側空間には、平場1、2が存在し、南側空間に平場3、4、5が存在している。建物遺構は平場2に1棟検出されたほか、平場4にも建物址と思われるピット群があり、この平場4では焼土や炭化物なども確認された。

SD1はおそらく区画と排水溝を兼ねた堀と思われる。北側の堀法面を石積みで保護しているが、石材は軽石でおそらく当地で採取されたものと思われる。軽石を長方形に丁寧に加工し、3段で積み上げている。また、おそらく橋脚の土台であろう平石のステップも確認できる。石積みは堀の東側の片面のみであるが、当初から限定的に施工したのか、解体されたのかはわからなかった。

SD1の石積みは北側の平場に対応していると思われる。レベルを見ると北側の平場は南側の平場より1段上っており、この高低差がSD1北側の平場を特別な空間に感じさせている。平場2で検出された建物は表層を攪乱されており、全容を明らかにできなかったが、居館の一部であった可能性もある。

出土遺物は15世紀の中頃から16世紀の前半、下つても中頃のものであり、当該時期が平原城の存続時期とみる。また、常滑の甕や天目、陶磁器などがあり、居館的な性格を伺わせる。特に15世紀中頃の天目(38)や鎌倉期の青白磁の梅瓶(40、41)などは、限られたクラスの者しか入手できないような優品で、当該期の平原城主(おそらく依田全真)は土豪以上のかなり力を持った人物であった可能性がある。

出土遺物はSD1ほかピット群や土坑の埋土中にあり、これらの遺構で構成された城郭は、16世紀の中頃から後半に城が破却されたことを示す。また、出土した石製品のほとんどが火熱を受けており、平場4の焼土のことも含めて考えると、歴史的環境で述べた通り、『高白斎記』にある天文18(1549)年の平原城放火の記事が事実で、この頃に平原城が武田により落とされたと考えたい。また、推測の域を脱しないが平場1に建物跡が見つからなかったのも、平原城落城後の廃城行為により、削ってしまった可能性が考えられる。

なお、その後、一度利用が再開されたようで、埋没したSD1を切り聖壕のようなSD2が掘られているが、これについても歴史的環境で述べたとおり、時期的には16世紀後半以降に、西側方面の曲輪攻撃の必要が生じて構築したものと推測する。16世紀後半で考えられる平原城周辺での戦闘行為とすれば、やはり天正壬午の乱ではないだろうか。依田信蕃が真田と結び、佐久に乱入した北条と本格的に対峙する乱の最終段階において、平原城でも攻防が繰り返されたのではないかと考えたい。



調査区全景（ドローン）（西から）



表土除去作業



遺構検出作業



遺構掘り下げ（SD1 東側石積）



遺構掘り下げ（SD3）



SD1 東側石積みの取り外し



断面図作成（SD1 東側石積み）



ボランティアによる発掘作業



ドローン撮影



森泉氏による指導



Ta1 全景 (南から)



Ta1 ベルトを残して掘り上げ (南西から)



Ta1 掘方まで完掘 (南から)



P1 (北から)



P8 (東から)



SD1 東側石積み (西から)



SD1 東側底部の石 (南西から)



SD2 西側 (東から)



SD1 東側石積み裏込 (西から)



SD1 遺物出土状況 (遺物番号27)



SD2 全景 (南から)



SD2 北側 (南から)



SD2 北側断面 (南から)



SD2 南側断面 (北から)



Tr3 (SD2 の続き) (北東から)

SD1



SD3 全景 (北から)



P1 (東から)



P2 (南から)



P4 (西から)



SK1 (写真上)、SK2 (写真下) (東から)



SK3 (北東から)



SK4 (南から)



SK5 (東から)



SK6 (北から)



SK7 (西から)



SK8 (東から)



左から SK12、P23、SK10、SK11 (北から)



SK13 (西から)



SK14 (半截) (南から)



SK15 (写真左)、P30 (写真右) (北から)



SK17 (北から)

Ta1 号竖穴建物址

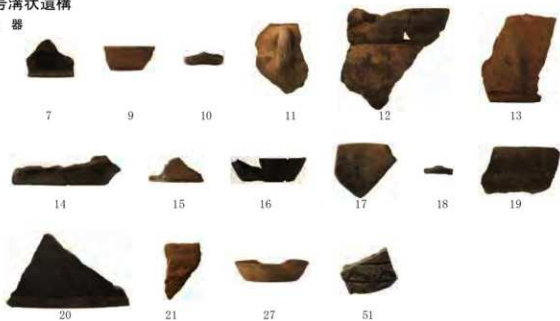
土器

石製品



SD1 号溝状遺構

土器



陶磁器





石製品



その他



SD2号掘状遺構

土器



陶磁器

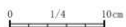


33



45

46



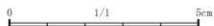
47



銭貨



53



石製品



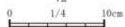
69



70



72



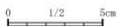
71



73



74



SD3号溝状遺構

陶磁器



48

P14

銭貨



54



P9

石製品



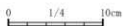
77

P30

土器



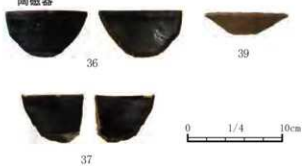
6



SK3 号土坑
石製品



SK5 号土坑
陶磁器



SK6 号土坑
石製品



SK7 号土坑
土器



SK8 号土坑
土器



石製品



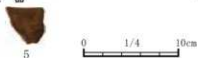
SK19 号土坑
陶磁器



SK15 号土坑
石製品



SK10 号土坑
土器



トレンチ 1
石製品



トレンチ 2
土器



遺構外
土器



石製品



陶磁器



報告書抄録

ふりがな	ひらはらじょうあと							
書名	平原城跡							
副書名	一土砂採取に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一							
シリーズ名	小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第44集							
編著者名	高橋陽一、望月博史、星野保彦、井出勇介							
編集機関	小諸市教育委員会							
所在地	〒384-8501 長野県小諸市相生町三丁目3番3号 Tn0267-22-1700 (代表)							
発行年月日	2024年3月22日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
平原城跡	長野県 小諸市 大字 平原字星合	202088	148	36° 19' 01"	138° 27' 59"	20210712 ～ 20211130	2514 ㎡	土砂採取
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
平原城跡	城館跡 散布地	中世	竪穴建物址	1	土師器、須恵器、 陶磁器、銭貨、 石製品			
			溝状遺構	3				
			土坑	19				
			ピット	30				
要約	<p>今回の調査地点である平原城跡星合地籍の曲輪は、16世紀前半期の城郭とみられることが判明した。星合地籍の大堀に囲まれた600m四方の曲輪からは5面の平場が看取された。</p> <p>平場の最頂部、平場1はピット・竪穴建物址などが全く検出されず後世に整地されたかのようにある。その東の下がった平場2には1棟のみ竪穴建物址があった。高所にあたるその平場1・2の前面に東西方向のSD1溝が設けられ、北側の法面に石積みが残っていた。石材は軽石で、長方形に加工し、3段に積み上げている。一か所溝内に橋脚部の礎石とみられる安山岩製の平石がステップ状に配置されていた。</p> <p>また調査区の西端に曲輪端部と平行して、幅が狭く深い塹壕のような堀状遺構が検出された。平場4からはし字の浅い溝と土坑と単独ピットが密集していた。</p> <p>出土遺物は15世紀の後半から16世紀の前半に限られ、平原城跡星合地籍の使用時期とみられる。石製品はいずれも二次焼成を受けており、炭化物を堆積する土坑もあった。</p> <p>今回の調査で平原城跡の星合地籍は、溝に新田があるので、後代まで下る可能性はあるが、武田氏の本格的な佐久侵攻以前であろう遺跡で、青白磁の梅瓶や天目茶碗、茶白などからは、有力者の城館跡であろうことが分かった。</p>							

小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書 第44集

平原城跡

一土砂採取に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

発行日 2024年3月22日

編集 〒384-8501 長野県小諸市相生町三丁目3番3号
小諸市教育委員会

発行 小諸市教育委員会

発行所 〒384-0026 長野県小諸市本町二丁目1番4号

ヨダ印刷サービス株式会社